

## 時代小説のすすめ

● 浅原義雄

「怒髪衝天、疾風迅雷、変幻自在、百鬼夜行、神出鬼没」などの言葉は、過去の漢字検定二級で出題された四字熟語の一例である。コミュニケーション文化学科の学生諸君は、漢検二級に合格すれば二単位が免除されるのだから、資格がそのまま活きる。漢字力を抵抗なく修得できる方法として、時代小説を集中的に読むのも一策かもしれない。「御法度の関所破りをして栈道を逃げた旅人が、土壇場で捕り手に囲まれ非業の最期を遂げる」などの文句は、時代小説を一読すればお決まりのパターンとして滅多矢鱈と出てくる。ちなみに下線部は、過去に二級で出題された漢字である。わざわざ漢検の練習問題を買ってきて、さあ勉強するぞと大上段に構えなくと

も、時代小説を読めば語彙力が自然に身について漢字力がアップすること請け合いである。

人間の根源的な意義を問うたドストエフスキーの『罪と罰』や、ゲーテの『ファウスト』などの本格的な本を読むと、肩がこって途中で投げ出してしまいたくなるだろうが、時代小説は寝転がって、ポテトチップスでもつまみながら気楽に読める。そこで繰り広げられる「切るに切れない親子の情」、「非道な武士の掟」、「情緒纏綿とした男女の交情」など、人情の機微を描いてやまない時代小説の世界は、絶えず前向きに常に全力投球しがちな青春時代において、一服の清涼剤となるかもしれない。

昔は本を廉価に借りられる貸本屋が町の至る所にあったが、現代

では貸本屋どころか古本屋までもが存続を危ぶまれている始末である。お手軽な貸本屋の世界は、駄菓子屋と同じで完全に過去の産物になってしまったようだ。貸本屋が街から姿を消した昨今、新刊本は値が高くて手が出しにくいので時代小説を入手するには、図書館か本の安売り屋に行くのが一番手っ取り早いだろう。

我々が子供時代の時代小説と言えば、山本周五郎、山手樹一郎、吉川英治等の作家の本が盛んにもてはやされていた。中には子供にはタイトルもほとんど読めない、国枝史郎の『神州<sup>しんしゅう</sup>纒<sup>こう</sup>纒<sup>けつ</sup>城<sup>じょう</sup>』や角田喜久雄の『鬮<sup>どくろ</sup>腰<sup>せん</sup>銭』などのおどろおどろしい作品もあった。これ

らの作家の作品は古色蒼然として、平成の世に生きている現代の皆さんにはおそらく手を出しにくいであろう。昨今もてはやされている藤沢周平や池波正太郎の人情ものの世界が、まだ難しすぎて肌に合わないと感じた人は、女流作家の宮部みゆき『幻色江戸ごよみ』、平岩弓枝『御宿かわせみ』、北原亞以子『深川滯通り木戸番小屋』あたりを読んでみると良いかもしれない。

読書する時間がふんだんにあるのは学生時代の特権である。アルバイトにばかり精を出さずに、騙されたと思って一度時代小説を手にしてみて下さい。